

6. 看護業務改善のための滅菌関連業務の外部委託へ向けての取り組み

福井大学医学部附属病院 副看護部長 河波清美

【実践概要】

業務担当副看護部長として、平成16年度SPD導入、平成17年度MEセンター稼動に関わり、看護業務改善として医療材料の在庫管理、請求・収納業務の省力化、看護用品、ME機器管理の省力化が図れた。今回、滅菌管理アウトソーシングの一員として、実態調査結果から滅菌関連業務を外部委託した場合の看護業務の削減（時間、人的削減）、メリットの明確化、ワーキングにおいて外部委託に向けての方向性の明確化に取り組んだ。

【実行計画】

1. 手術部・外来・光学医療診療部における滅菌準備業務等業務の調査を行う。
2. 調査内容から外部委託した場合の看護業務の削減の効果を明らかにする。
3. 他施設（岐阜大学）を訪問し情報収集を行う。
4. 滅菌管理アウトソーシングで外部委託に向けて方向性の検討を行う。

【結果およびまとめ】

1. 手術部で看護師・看護助手が行っている滅菌関連業務調査：タイムスタディ結果（1日平均）
看護師：手術器材洗浄業務 757.5分、セット組・滅菌準備業務 348.75分
（手術室内清掃、セッティング業務 1050分）
看護助手：滅菌準備業務 144分、手術器材洗浄業務 411分、その他の周辺業務（スリッパ洗浄等）84分
2. 病棟・外来・光学医療診療部で看護師・看護助手が行っている器材の滅菌準備業務等業務内容
外来：使用器材のほとんどは一次洗浄せず専用容器に入れ滅菌管理部に搬送（メッセンジャー）
光学医療診療部：内視鏡はすべて光学医療診療部内で洗浄機で洗浄（臨床工学技師、看護師）
検査件数一日平均 20.8件（検査後すぐに洗浄し検査をまわしている状況であり現行の内視鏡数では滅菌管理部への移行は困難）
3. 外部委託した場合の看護業務の削減の効果
滅菌管理部：看護師長 0.5名、医療機器操作員 2.0名、看護助手 1.0名、パート職員（6時間） 2.0名、パート職員（4時間） 1.0名
手術部：看護師 2.3名、看護助手（6時間） 2.0名の削減が見込まれる
4. 他施設訪問による情報収集（平成19年1月15日岐阜大学訪問）
メリット：業務量を見ながら安定した人員確保ができ、勤務日、時間のシフトも可能となる。
手術部看護師の介助業務以外の業務が効率化され、超過勤務の解消、手術件数増加への対応が可能となる。

デメリット:委託スタッフの移動が頻繁だと十分な教育がないまま配置される可能性がある。

5. 平成18年6月より滅菌管理アウトソースワーキングで検討

- 1) 滅菌管理部の現状，業務量の報告，手術部の滅菌関連業務の現状，業務量の報告，今後の追加業務について検討を行った。
- 2) 上記をもとに，業者によるプレゼンテーション（3社）を実施。
- 3) 人件費削減分と外部委託した場合の所要経費を比較した場合，経費持ち出しになる可能性が高いが，滅菌業務の効率化と質の向上，手術部職員の業務改善が期待できるため，滅菌管理業務を外部委託する方向で決定し院長へ報告した。